

2023.3.10 発行

# MARUNAKA TIMES

第31号

第21-36210-0048号

竣工

[復興]一般農道整備0303工事小島3期地区

「施工前写真」



[ 工区 2 ]

「施工後写真」



[ 工区 1 ]

ご協力ありがとうございました。

【監督】大竹 浩二



# 社島のつばやき



さあ、年度末です。

そして、弊社の決算期でもあります。

今期は4月からGW明けまで、昨年度からの膨大な残務処理を引きずり、大変な状況からのスタートとなりました。8月頃にはプラスに転じるのではないかと予想しておりました。しかし、残念ながら挽回にはかなりの時間を要し、11月末にやっとプラス転換となりました。以上は年末の賞与時に説明した通りです。

年末の時点では、残された工事を「全て順調に」竣工出来れば…とも説明しておりました。現状は極めて厳しい予測です。資材高騰・燃料高騰などの影響も重くのしかかり今年度の決算内容は、近年例にないかなり厳しい内容になるのでは感じております。

さて、来年度は「経営方針」にて何度も説明をしていた通り”福島県”だけが恩恵を受けていた復興事業と通常公共事業の倍付予算から来る「繰越予算マジック」の種明かしが始まります。今年度の公共事業予算は、前年度と比較しても表面上はあまり変わりありませんので、いったい何が心配なのかと思われます。しかし実は、震災後から毎年膨大な復興及び通常予算が繰越されていたのです。おかげで、年度末も切れ目のなく仕事が発注され、他県から比べれば仕事確保が容易なのが福島県でした。その繰越予算も今年度で概ね終了となり、来年度から「震災前」の状態に戻ると言っても過言ではないでしょう。

現に、近隣の郡山市では入札応札者が50社を超える、と聴こえてきます。

二本松市でも15社超えです。ある意味「運」で仕事が受注されている？そんな印象です。震災で業者が増え、その後も台風19号関連の災害復旧など、福島県の建設業界には強い追い風が吹いていました。しかし、永遠にそんな風は吹き続けるはずありません。

やがて、震災前の勝ち組と負け組の時代がやって来るのです。

当社はそこを見据えて「農業事業」へ進出し大きな実績を作りました。

続くは「運送事業」「倉庫事業」です。

全ては皆さんと稼いだ資金を本業の「軸」とし、雇用維持と事業継続を目標に進んできた賜物です。

来年度は、かなり厳しい状況と思われます。

いまこそ、企業理念・経営理念の下、社員一同で知恵を出し合い、邁進出来ればと思います。その為にも、是非ご協力お願い致します。

今年度もわずか、あと20日です。無事故、無災害で宜しくお願い致します。



## 社内報告会・安全大会の開催について

開催日：令和5年4月1日（土）

- ①社内報告会 8：00～9：15
- ②集合写真撮影 9：30～
- ③ボランティア活動 10：00～11：45
- ④昼食 12：00～13：00
- ⑤安全大会 13：30～15：30

